



その「再生可能エネルギー」って何？



太陽の光や、風や水の力などで発電するエネルギーのことだよ。石油や天然ガスなどの化石燃料と違って、資源が枯渇する心配がなく、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出も少ない、クリーンなエネルギーと言われているよ。燃料を輸入する必要がないから、エネルギー自給率の向上にもつながるんだ。

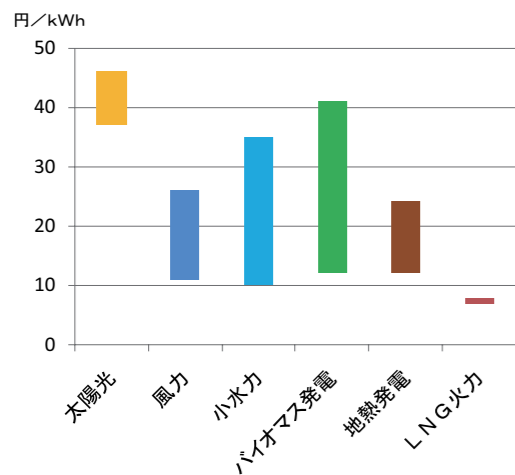


へえー、再生可能エネルギーって良いことだらけだね。



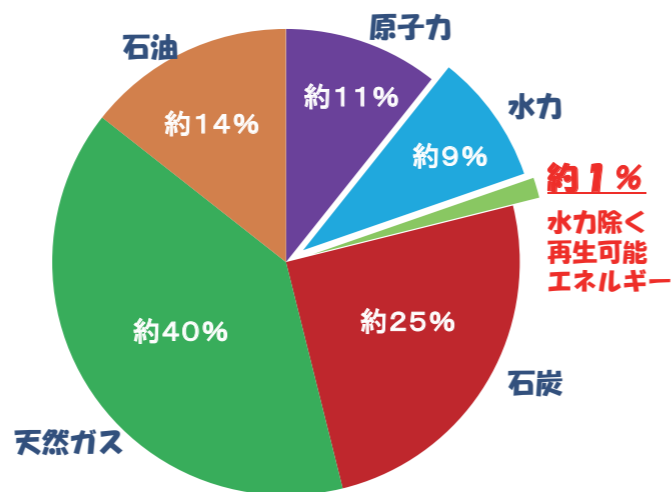
ただね、再生可能エネルギーは火力発電などに比べてコストが高かったり、天候などにより出力が安定しなかったりと、課題も多いんだ。だから今でも、再生可能エネルギーはエネルギー全体の約1%、大規模な水力発電を含めても10%程度しかないんだよ。

【再生可能エネルギーのコスト】



(出典：資源エネルギー庁ホームページ)

【日本の年間発電電力量の構成 (2011年度)】



(出典：電気事業連合会資料を基に作成)



なるほど、じゃあ、どうすれば再生可能エネルギーって増えるのかな。



その方法の1つとして、国は7月から「固定価格買取制度」をスタートして、再生可能エネルギーの導入・普及に力を入れているんだ。

この制度は「太陽光」や「風力」、「中小水力」や「地熱」、「バイオマス (生物資源)」といった再生可能エネルギーからつくられた電力を、九州電力などの電力会社が、政府の決めた価格で一定期間購入する制度なんだ。

一定期間、一定価格で買い取りを保障することで、企業や市民団体などが再生可能エネルギー事業に着手しやすくなるんだよ。



なるほど。再生可能エネルギーについて、もっと詳しく知りたいな。



じゃあ、次回も一緒に「再生可能エネルギー」について考えてみよう！

(10月号に続く)

●問い合わせ 役場企画課 新エネルギー政策係 ☎ (293) 3118

シリーズ「再生可能エネルギー」って何だろう？①

皆さんはテレビや新聞、ラジオなどで「計画停電」や「固定価格買取制度」という言葉を見聞きしていませんか。

これらはエネルギー問題に関する言葉ですが、分かりにくいところがありますよね。からいもボーイもその1人です。

疑問を持ったからいもボーイは、確認のため大津町役場にやってきました。



時々テレビや新聞で見かける「計画停電」って何？



計画停電というのは、夏場に電力不足が予想される中、大規模な停電を回避するために、電力会社が事前に日時や地域などを知らせ、電力供給を「計画的に」一時停止することだよ。計画停電は原則実施されないけど、万が一に備えた「セーフティネット」として準備しているんだ。



どうして、電力が不足する可能性があるの？



電力会社がつくりだす電気の量より、皆さんが使う電気の量の方が多くなると、電気が足りなくなって停電してしまうんだ。だから、国は皆さんにより一層の節電を呼び掛けているんだよ。ちなみに、九州では2010年の夏に比べて10%以上の節電が求められているんだ。



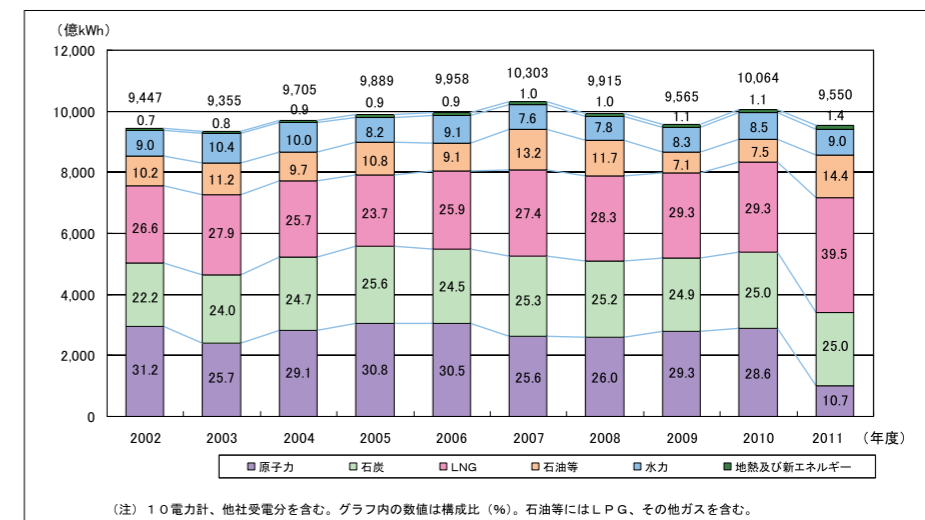
原子力発電でたくさん電気をつくっていたと思うけど？



2011年3月にあった、東京電力福島第1原発事故は知っているよね。あの事故以降、国のエネルギー政策は「原発中心」から「脱原発依存」に移っているんだ。

2010年6月に国が定めた「エネルギー基本計画」では、2030年までに原発を14基以上増設し、原発の電源構成比率 (総発電量に占める比率) を53%まで引き上げる方針を盛り込んでいたのだけど、原発事故を受け、「脱原発依存」へ方針を転換した結果、2011年度の原子力発電の比率は、10.7%まで減っているんだ。

【電源別発電電力量構成比】



(注) 10電力計、他社受電分を含む。グラフ内の数値は構成比 (%)。石油等にはLPG、その他ガスを含む。

(出典：電気事業連合会ホームページ)



原発の比率が減ると、どうなるの？



現在、LNG (液化天然ガス) を使った火力発電などで原発の比率が減った分まで頑張っただけで、原料となるLNGのコストが高かったり、温室効果ガスである二酸化炭素を空気中にどんどん放出したりと、デメリットもあるんだ。

そんな中、原発の代わりにする電源として「再生可能エネルギー」の役割に期待が集まっているんだよ。